

1人1台タブレット端末の活用によって より妥当な考えをつくりだす学習

第6学年

電気の利用

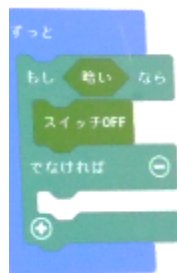
こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 解決したい問題について互いの予想や仮説を尊重しながら追究したり、実験の結果を基に、予想や仮説を振り返り、再検討したりするなど、多面的に考えることを通して、より妥当な考えをつくりだすことができました。

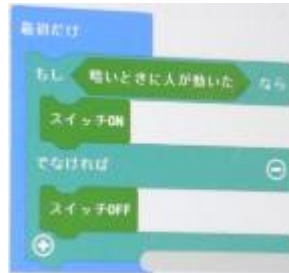
学習支援ツールの活用による効果



大型提示装置



児童A



児童B

学習支援ツールを用いることで互いの予想や仮説を尊重しながら追究できるようにする。

- ・電子黒板に映し出された画像から互いの予想や仮説を把握する。

教師の指導のポイント

- 学習支援ツールを用いて他者の予想や仮説を把握できるようにすることで、実験後に他者の多様な考えを基に、より妥当な考えに改善できるようにする。

タブレット端末の活用による効果



実験の結果を基に、予想や仮説を振り返り、再検討できるようにする。

- ・他者の多様な考えを知り、コンピュータに意図した処理をどのように改善すれば、意図した一連の動きに近付くかを試行錯誤する。

教師の指導のポイント

- 児童がコンピュータを活用して自らが考える動作の実現を目指して試行錯誤を繰り返す体験を通して、より妥当な考えに改善できるように時間を確保する。

第6学年「電気の利用」におけるプログラミング

教師の指導のポイント

- プログラミングを効果的に取り入れることで、「学習内容と日常生活や社会との関連を重視した学習」「問題解決の活動を意識しながら論理的に解決していく学習」を充実することができる。
- 第6学年「電気の利用」においてプログラミングを実施する際には、エネルギー資源の有効利用という観点から、電気の効率的な利用について捉えることができるようにする。